

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

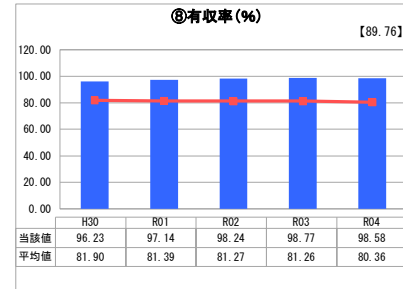
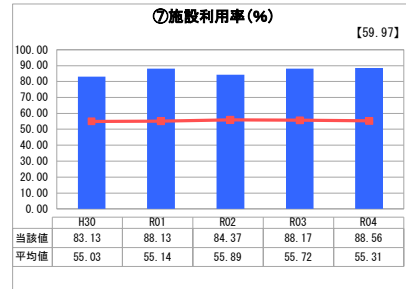
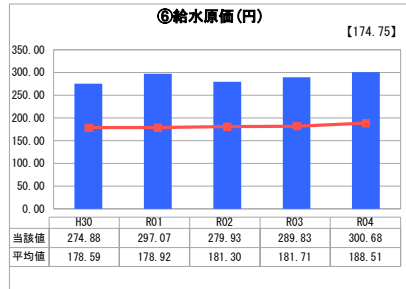
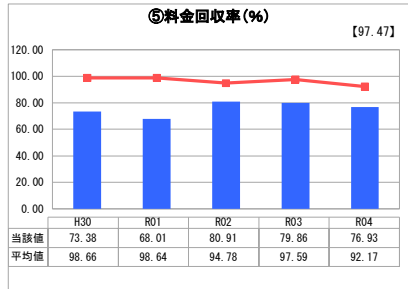
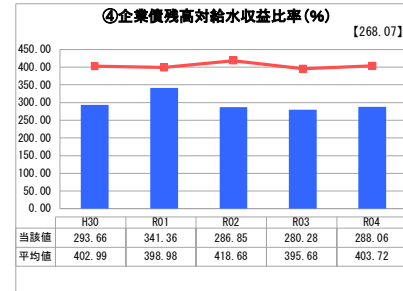
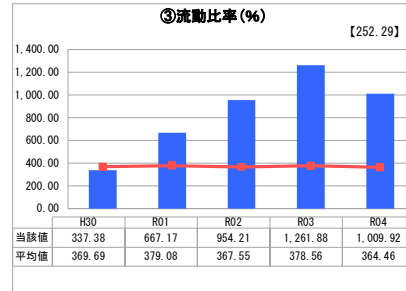
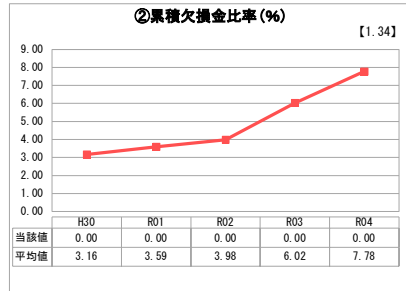
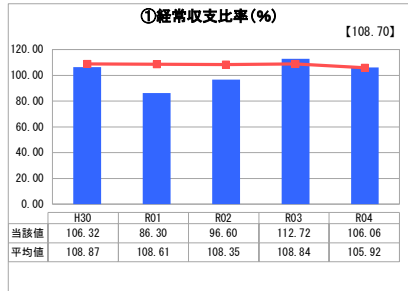
千葉県 白井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	76.64	31.73	3,883	

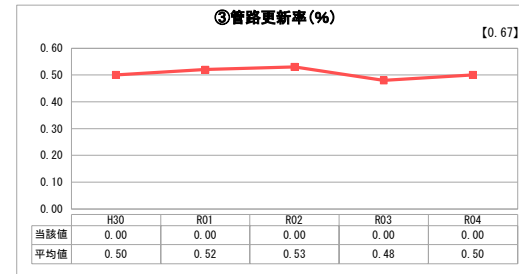
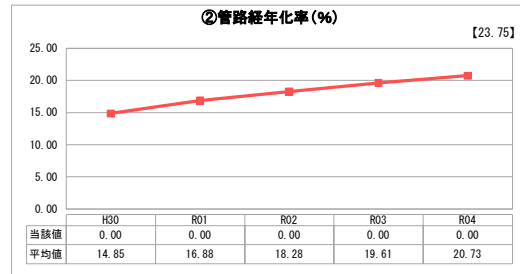
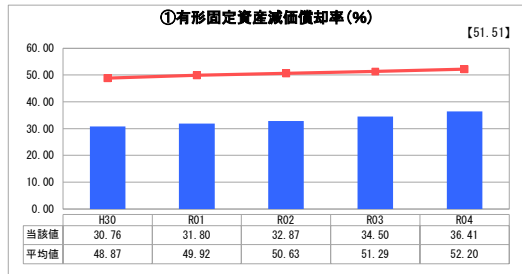
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
62,845	35.48	1,771.28
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
19,656	6.03	3,259.70

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

料金回収率は100%に達しておらず、類似団体の平均を下回っておりますが、令和2年4月に料金改定を実施して以降、数値は改善傾向にありました。令和4年度は、動力費の高騰や資産減耗費の発生等により、数値が低下しています。

経常収支比率は100%を超え、類似団体の平均を上回っています。令和4年度は、一般会計繰入金や県補助金等、主に営業外収益の減に伴い、数値が低下しています。

給水原価は、類似団体の平均を上回る傾向にあります。これは、白井市に自己水源が無く、浄水を全量買っているためです。令和4年度は、動力費の高騰や資産減耗費の発生等により、給水原価が上昇しています。

累積欠損比率は、0%を保っています。

企業債残高対給水収益比率は、配水場建設に伴う企業債借入により、令和元年度をピークに減少傾向でした。令和4年度は、企業債借入額が企業債償還額を上回ったことから比率は上昇していますが、類似団体の平均を下回っています。

流動比率は増加傾向でしたが、令和4年度は工事等の未払金が増加したことから比率は減少していますが、類似団体の平均を上回っています。

施設利用率、有収率は、いずれも前年度並みとなり、類似団体の平均を大きく上回っていることから、経営の効率性は概ね良好と捉えています。

### 2. 老朽化の状況について

配水管の耐用年数が38年となり、法定耐用年数を経過した配水管が無いため、管路経年率・管路更新率の数値は計上されていません。

配水管総延長約100kmのうち、30年経過した配水管は27.5%（令和4年度末現在）となっています。

令和5年度には、法定耐用年数を経過する配水管が現れることから、管路更新計画の策定を進めており、経年状況を考慮しながら、有効で効率的な投資を検討して参ります。

### 全体総括

白井市は、自己水源が無いため浄水を全量買っていることから、給水原価が類似団体を大きく上回っています。

このため、料金回収率は過去5年間100%を下回っており、県や市の補助金等に依存しています。

経営改善を図るため、令和2年4月1日から水道料金改定（平均改定率15%）を実施しており、料金回収率は100%に満たないものの、改善傾向にあります。

また、料金改定を踏まえて、今後の見通しや更なる経営健全化に向けた検討を行い、平成28年度に策定した経営戦略を見直し、令和2年度には上下水道事業経営戦略を策定しております。